

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 0 月 1 0 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 2 9 7 2 2 1
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 2 - 2 9 7 2 2 1]

出 願 人 本 田 技 研 工 業 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 3 年 7 月 9 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 5 4 4 9 8

【書類名】 特許願

【整理番号】 H102279801

【提出日】 平成14年10月10日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B60R 22/36

【発明の名称】 自動車用シートベルト装置

【請求項の数】 4

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 樋口 等

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 齋藤 健一

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 河村 信之

【特許出願人】

【識別番号】 000005326

【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100064908

【弁理士】

【氏名又は名称】 志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】 100108578

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】 100101465

【弁理士】

【氏名又は名称】 青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】 100094400

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】 100107836

【弁理士】

【氏名又は名称】 西 和哉

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【弁理士】

【氏名又は名称】 村山 靖彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008707

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705358

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 自動車用シートベルト装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 乗員の上半身前側を拘束するショルダーベルト部と乗員の腰前側を拘束するラップベルト部とを備え、乗員の腰部下側にラップベルト部との間で乗員の腰部を拘束するヒップベルトを設けたことを特徴とする自動車用シートベルト装置。

【請求項 2】 ラップベルト部の先端部を、車室外側下部に設けたアウタースルーアンカーに挿通し更にシートクッションを横切るヒップベルト部としてインナーアンカーに固定したことを特徴とする請求項 1 に記載の自動車用シートベルト装置。

【請求項 3】 シートクッションの車室外側部に、略中央部が上下方向に回動可能に支持された棒状のアウターアンカーを設け、このアウターアンカーの一端にラップベルト部の先端部を固定すると共にアウターアンカーの他端にヒップベルトの基端部を固定して、ヒップベルトの先端部をシートクッションを横切ってインナーアンカーに固定し、衝撃印加時にアウターアンカーを回動させて乗員の腰部をラップベルト部とヒップベルトとで挟み込むように保持するパワーソースを設けたことを特徴とする請求項 1 に記載の自動車用シートベルト装置。

【請求項 4】 一端がアウターアンカーあるいはインナーアンカーに固定されたヒップベルトの他端がシートクッションを横切ってプリテンショナーに支持されていることを特徴とする請求項 1 に記載の自動車用シートベルト装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

この発明は、3点式の自動車用シートベルト装置に関するものであり、特に、ヒップベルトを備えたシートベルト装置に係るものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

自動車用シートベルト装置の中には、ショルダーベルト部とラップベルト部とを備えたいわゆる 3 点式シートベルト装置が知られている。この 3 点式シートベルト装置はショルダーベルト部により着座する乗員の上半身前側を拘束し、ラップベルト部により腰前側を拘束して、乗員を確実に保護するものであるが、このようなシートベルト装置を改良して、妊婦や腹部に疾患がある乗員が着座した場合でも、腹部を圧迫しないようにした構造のものが提案されている。（例えば、特許文献 1 参照）。

【 0 0 0 3 】

【特許文献 1】

実開平 6 - 4 4 6 5 5 号公報

【 0 0 0 4 】

これを図 6 によって説明すると、リトラクター 1 から上方に引き出されたシートベルト 2 がスルーアンカー 3 に挿通され、このシートベルト 2 の先端部はシート 4 の車室外側の車体部材 5 にアウターアンカー 6 を介して固定されている。シートベルト 2 の中間部には 2 つのガイド付きタングプレート 7, 8 が装着され、一方のガイド付きタングプレート 7 はシート 4 の車室内側の車体部材 9 に固定されたバックル 1 0 に着脱可能に取り付けられ、他方のガイド付きタングプレート 8 はシート 4 の前側でシートフレーム 1 1 に固定したバックル 1 2 に着脱可能に取り付けられている。したがって、一方のガイド付きタングプレート 7 とスルーアンカー 3 との間はショルダーベルト部 1 3 として構成され、一方のガイド付きタングプレート 7 とアウターアンカー 6 との間は両足の大腿部を拘束するラップベルト部 1 4 として構成される。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

上記従来のシートベルト装置においては、ラップベルト部 1 4 の中央部分がシート 4 の前側でシートフレーム 1 1 に支持されるため、その分だけ乗員の腰前側への圧迫が少なくなる点で優れているが、前方へ移動しようとする乗員の腰前部は相変わらず下側のラップベルト部 1 4 で支持しなければならず、乗員にかかる負荷を大きく軽減するには十分ではなかった。

また、乗員がスカートを身につけた女性である場合には、他方のガイド付きタングプレート 8 を固定するのに抵抗感があるという課題がある。

そこで、この発明は、乗員にかかる負荷を十分に軽減し、抵抗感なく装着することができる自動車用シートベルト装置を提供するものである。

【0 0 0 6】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、請求項 1 に記載した発明は、乗員の上半身前側を拘束するショルダーベルト部（例えば、実施形態におけるショルダーベルト部 2 9）と乗員の腰前側を拘束するラップベルト部（例えば、実施形態におけるラップベルト部 3 0）とを備え、乗員の腰部下側にラップベルト部との間で乗員の腰部を拘束するヒップベルト（例えば、実施形態におけるヒップベルト部 3 1、ヒップベルト 3 7、4 5）を設けたことを特徴とする。

このように構成することで、乗員の腰部をラップベルト部とヒップベルトにより拘束することが可能となる。

【0 0 0 7】

請求項 2 に記載した発明は、ラップベルト部の先端部を、車室外側下部に設けたアウトースルーアンカー（例えば、実施形態におけるアウトースルーアンカー 2 5）に挿通し更にシートクッション（例えば、実施形態におけるシートクッション 1 5 A）を横切るヒップベルト部（例えば、実施形態におけるヒップベルト部 3 1）としてインナーアンカー（例えば、実施形態におけるインナーアンカー 2 6）に固定したことを特徴とする。

このように構成することで、ラップベルト部にかかる衝撃荷重をショルダベルト部及びヒップベルト部で分担させることが可能となる。

【0 0 0 8】

請求項 3 に記載した発明は、シートクッションの車室外側に、略中央部が上下方向に回動可能に支持された棒状のアウトーアンカー（例えば、実施形態におけるアウトーアンカー 3 3）を設け、このアウトーアンカーの一端にラップベルト部（例えば、実施形態におけるラップベルト部 3 0）の先端部を固定すると共にアウトーアンカーの他端にヒップベルト（例えば、実施形態におけるヒップベル

ト 3 7) の基端部を固定して、ヒップベルトの先端部をシートクッションを横切ってインナーアンカー（例えば、実施形態におけるインナーアンカー 2 6）に固定し、衝撃印加時にアウターアンカーを回動させて乗員の腰部をラップベルト部とヒップベルトとで挟み込むように保持するパワーソース（例えば、実施形態におけるパワーソース 3 8）を設けたことを特徴とする。

このように構成することで、衝撃荷重が作用した場合にパワーソースを介してアウターアンカーが回動すると、乗員の腰部はラップベルト部とヒップベルトとで挟み込むように保持される。

【 0 0 0 9 】

請求項 4 に記載した発明は、一端がアウターアンカーあるいはインナーアンカー（例えば、実施形態におけるインナーアンカー 2 6）に固定されたヒップベルト（例えば、実施形態におけるヒップベルト 4 5）の他端がシートクッションを横切ってプリテンショナー（例えば、実施形態におけるプリテンショナー 4 4）に支持されていることを特徴とする。

このように構成することで、衝撃荷重が作用した場合にプリテンショナーによりヒップベルトが巻き取り方向に引張られるため、乗員の腰部はラップベルト部とヒップベルトとで挟み込むように保持される。

【 0 0 1 0 】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施形態を図面と共に説明する。

この発明の第 1 実施形態を図 1 ～図 3 に基づいて説明する。図 1 は運転席に乗員が着座してシートベルト装置を装着した状態を示す正面図、図 2 はシートとシートベルト装置を示す斜視図、図 3 はシートベルトの装着状況を示す簡略図である。

【 0 0 1 1 】

図 1、図 2 に示すように、シートクッション 1 5 A とシートバック 1 5 B を備えたシート 1 5 には 3 点式シートベルト装置 1 6 が装着されている。シートベルト装置 1 6 はリトラクター 2 1 から上方に引き出されたシートベルト 2 2 が、図示しないセンターピラーに支持されたスルーアンカー 2 3 に挿通され、このシー

トベルト 2 2 の先端部はシート 1 5 の車室外側のフロア 2 4 に固定されたアウトスルーアンカー 2 5 に挿通され、更にシート 1 5 のシートクッション 1 5 A 上でこれを横切るヒップベルト部（ヒップベルト） 3 1 として車室内側のフロア 2 4 のインナーアンカー 2 6（図 1 に示す）に固定されている。

【 0 0 1 2 】

シートベルト 2 2 にはスルーアンカー 2 3 とアウトスルーアンカー 2 5 との中間部分にガイド付きタングプレート 2 7 が装着され、このガイド付きタングプレート 2 7 はシート 1 5 の車室内側のフロア 2 4 に固定されたバックル 2 8 に着脱可能に取り付けられている。尚、ヒップベルト部 3 1 の基端部側にはシートクッション 1 5 A に固定したガイドローラ 1 7 が設けられ、ヒップベルト部 3 1 の移動をスムーズにしている。

【 0 0 1 3 】

したがって、乗員は着座する際にはガイド付きタングプレート 2 7 をバックル 2 8 から外した状態で、シートクッション 1 5 A 上のヒップベルト部 3 1 上に腰掛けて、図 1 に示すようにガイド付きタングプレート 2 7 をバックル 2 8 に取り付けてシートベルト装置 1 6 を装着する。

そして、シートベルト装置 1 6 の装着状態では、ガイド付きタングプレート 2 7 とスルーアンカー 2 3 との間は乗員の上半身前側を拘束するショルダールベルト部 2 9 として構成され、ガイド付きタングプレート 2 7 とアウトスルーアンカー 2 5 との間は乗員の腰前側を拘束するラップベルト部 3 0 として構成され、アウトスルーアンカー 2 5 とインナーアンカー 2 6 との間は乗員の尻部とシートクッション 1 5 A との間に位置するヒップベルト部 3 1 として構成される。そして、これらショルダールベルト部 2 9 とラップベルト部 3 0 とヒップベルト部 3 1 とが図 3 に簡略化して示すように連続した 1 本のシートベルト 2 2 により構成されることとなる。

【 0 0 1 4 】

上記実施形態によれば、シートベルト装置 1 6 を装着した状態で、衝撃により乗員が前方に移動しようとする、シートベルト 2 2 の引き出しが阻止されたりトラクター 2 1 からインナーアンカー 2 6 までの間に張力が付与される。つまり

、張力はショルダーベルト部 2 9 とラップベルト部 3 0 とヒップベルト部 3 1 とで分担された状態で付与される。これによりショルダーベルト部 2 9 により乗員の上半身前側が拘束されると共にラップベルト部 3 0 とヒップベルト部 3 1 により乗員の腰部が拘束される。

特に、ラップベルト部 3 0 とシートクッション 1 5 A との間から前側に乗員がすり抜けるサブマリン現象が起きようとした場合に、ヒップベルト部 3 1 が乗員の尻部の前側への移動を阻止して、乗員の前方移動を確実に防止できるため信頼性を格段に向上することができる。

【 0 0 1 5 】

したがって、ラップベルト部 3 0 に作用する荷重をショルダーベルト部 2 9 のみならずヒップベルト部 3 1 にも分担させることができるため、ラップベルト部 3 0 における乗員の腹部への負荷を大幅に軽減することができる。

その結果、妊婦や腹部に疾患がある乗員であってもシートベルト装置 1 6 の着用を行うことができる。また、スカートを着用した女性でも抵抗感なく使用できる。

【 0 0 1 6 】

次に、この発明の第 2 実施形態を図 4 に基づいて説明する。図 4 は図 2 に対応する斜視図である。尚、前記第 1 実施形態と同一部分には同一符号を付して説明する。

【 0 0 1 7 】

図 4 において、シートベルト装置 1 6 A はリトラクター 2 1 から上方に引き出されたシートベルト 3 2 が、図示しないセンターピラーに支持されたスルーアンカー 2 3 に挿通され、このシートベルト 3 2 の先端部はシートクッション 1 5 A の車室外側の側壁 1 5 a に設けたアウターアンカー 3 3 に固定されている。

このアウターアンカー 3 3 は略中央部の軸部 3 4 が上下方向に回動可能に支持された棒状の部材で、一端に前記シートベルト 3 2 のシートベルト取付部 3 5 が設けられ、他端に後述するヒップベルト 3 7 のヒップベルト取付部 3 6 が形成されている。尚、このアウターアンカー 3 3 はシート 1 5 の車室外側のフロア 2 4 に設けるようにしてもよい。

【0018】

シートベルト 32 にはスルーアンカー 23 とアウターアンカー 33 との中間部分にガイド付きタングプレート 27 が装着され、このガイド付きタングプレート 27 はシート 15 の車室内側のフロア 24 に固定されたバックル 28 に着脱可能に取り付けられている。

アウターアンカー 33 の他端のヒップベルト 37 のヒップベルト取付部 36 にはヒップベルト 37 の基端部が固定され、ヒップベルト 37 の先端部はシートクッション 15A を横切ってインナーアンカー 26 に固定されている。

アウターアンカー 33 の他端と車室外側のフロア 24 との間には衝撃印加時にアウターアンカー 33 を車室外側から見て反時計回りに回転させるパワーソース 38 が設けられている。

【0019】

パワーソース 38 は所定の大きさの衝撃を検出するとフロア 24 に固定された本体 39 からロッド 40 が上方に突出し、ロッド 40 先端に固定されたアウターアンカー 33 の他端を押し上げることでアウターアンカー 33 を回転させるものである。

【0020】

したがって、乗員は着座する際にはガイド付きタングプレート 27 をバックル 28 から外した状態で、シートクッション 15A 上のヒップベルト 37 上に腰掛け、ガイド付きタングプレート 27 をバックル 28 に取り付けてシートベルト装置 16A を装着する。

これにより、シートベルト装置 16A の装着状態では、ガイド付きタングプレート 27 とスルーアンカー 23 との間は乗員の上半身前側を拘束するショルダールベルト部 29 として構成され、ガイド付きタングプレート 27 とアウターアンカー 33 との間は乗員の腰前側を拘束するラップベルト部 30 として構成されることとなる。

【0021】

上記実施形態によれば、シートベルト装置 16A を装着した状態で、衝撃により乗員が前方に移動しようとする、シートベルト 32 の引き出しが阻止された

リトラクター 2 1 からアウターアンカー 3 3 までの間に張力が付与される。そして、このとき衝撃を検出してロッド 4 0 を突出させるパワーソース 3 8 によりアウターアンカー 3 3 が軸部 3 4 を中心にして回転（矢印で示す）するため、乗員の腰部は、下側に押し付けられるラップベルト部 3 0 と上側に持ち上げられるヒップベルト 3 7 とで挟み込むように保持される。

したがって、通常使用時においてはパワーソース 3 8 が作動しないためヒップベルト 3 7 による拘束感をなくすことができ、ひとたび衝撃荷重が印加された場合にはラップベルト部 3 0 とヒップベルト 3 7 の双方で乗員の腹部にかかる負荷を最小限に抑えサブマリン現象をなくして乗員の腰部を確実に拘束できる。

【 0 0 2 2 】

次に、この発明の第 3 実施形態を図 5 に基づいて説明する。図 5 は図 2 に対応する斜視図である。尚、前記第 1 実施形態と同一部分には同一符号を付して説明する。

図 5 において、シートベルト装置 1 6 B はリトラクター 2 1 から上方に引き出されたシートベルト 4 2 が、前述と同様のスルーアンカー 2 3 に挿通され、このシートベルト 4 2 の先端部はシート 1 5 の車室外側のフロア 2 4 に固定されたアウターアンカー 4 3 に固定されている。

シートベルト 4 2 にはスルーアンカー 2 3 とアウターアンカー 4 3 との中間部分にガイド付きタングプレート 2 7 が装着され、このガイド付きタングプレート 2 7 はシート 1 5 の車室内側のフロア 2 4 に固定されたバックル 2 8 に着脱可能に取り付けられている。

【 0 0 2 3 】

したがって、シートベルト装置 1 6 B は、ガイド付きタングプレート 2 7 とスルーアンカー 2 3 との間は乗員の上半身前側を拘束するショルダーベルト部 2 9 として構成され、ガイド付きタングプレート 2 7 とアウターアンカー 4 3 との間は乗員の腰前側を拘束するラップベルト部 3 0 として構成される。

そして、シートクッション 1 5 A の車室外側のフロア 2 4 にリトラクタ付きプリテンショナー 4 4 が取り付けられ、このプリテンショナー 4 4 にシートクッション 1 5 A を横切るヒップベルト 4 5 の基端部が取り付けられ、ヒップベルト 4

5の先端部は車室内側のインナーアンカー26に固定されている。尚、ヒップベルト45の基端部側にはシートクッション15Aに固定したガイドローラ17が設けられ、ヒップベルト45の移動をスムーズにしている。

【0024】

したがって、乗員は着座する際にはガイド付きタングプレート27をバックル28から外した状態で、シートクッション15A上のヒップベルト45上に腰掛け、ガイド付きタングプレート27をバックル28に取り付けてシートベルト装置16Bを装着する。

これにより、シートベルト装置16Bの装着状態では、ガイド付きタングプレート27とスルーアンカー23との間のショルダーベルト部29で乗員の上半身前側を拘束し、ガイド付きタングプレート27とアウターアンカー43との間のラップベルト部30で乗員の腰前側を拘束するととなる。

ここで、上記プリテンショナー44を車室内側のフロア24に固定し、プリテンショナー44から引き出されたヒップベルト45の先端部を図示しないアウターアンカーを介して車室外側のフロア24に取り付けるようにしてもよい。

【0025】

上記実施形態によれば、シートベルト装置16Bを装着した状態で、衝撃により乗員が前方に移動しようとする、引き出しが阻止されたリトラクター21からアウターアンカー43までの間に張力が付与される。これにより、ショルダーベルト部29により乗員の上半身前側を拘束し、ラップベルト部30により乗員の腰前側を拘束する。そして、このとき衝撃を検出してプリテンショナー44が瞬時にヒップベルト45を矢印で示すように巻き取るためヒップベルト45は上方に持ち上げられ、乗員の腰部はラップベルト部30とヒップベルト45とで挟み込むように保持される。

したがって、通常使用時においてはプリテンショナー44が作動しないためヒップベルト45による拘束感をなくすことができ、ひとたび衝撃荷重が印加された場合にはラップベルト部30とヒップベルト45の双方で乗員の腹部にかかる負荷を最小限に抑えサブマリン現象をなくして乗員の腰部を確実に拘束できる。

【0026】

尚、この発明は上記実施形態に限られるものではなく、例えば、図 4 に示すアウターアンカー 3 3 に替えて、パワースソース 3 8 の作動により、ラップベルト部 3 0 の下側への押し付け動作とヒップベルト 3 7 の上側への持ち上げ動作を行うリンク機構を設けるようにしても良い。

【 0 0 2 7 】

【発明の効果】

以上説明してきたように、請求項 1 に記載した発明によれば、乗員の腰部をラップベルト部とヒップベルトにより拘束することが可能となるため、ラップベルト部のみで乗員の腰前側を拘束した場合に比較してラップベルト部から乗員の腹部に作用する負荷を軽減できる効果がある。したがって、妊婦や腹部に疾患がある乗員が着座した場合でも腹部の圧迫をできる限り抑えることができる。また、乗員がスカートを身につけた女性の乗員であってもラップベルト部の中央部を固定する従来のシートベルト装置に比較して抵抗感なく装着できる効果がある。

【 0 0 2 8 】

請求項 2 に記載した発明によれば、上記効果に加えラップベルト部にかかる衝撃荷重をショルダベルト部及びヒップベルト部で分担させることが可能となるため、ラップベルト部から乗員の腹部に作用する負荷を大幅に軽減できる効果がある。

【 0 0 2 9 】

請求項 3 に記載した発明によれば、上記効果に加え衝撃荷重が作用した場合にパワースソースを介してアウターアンカーが回転すると、乗員の腰部はラップベルト部とヒップベルトとで挟み込むように保持されるため、衝撃荷重が印加された場合においてのみラップベルト部とヒップベルトにより乗員の腹部にかかる負荷を最小限に抑えて乗員の腰部を確実に拘束できる効果がある。したがって、通常使用時においてヒップベルトによる拘束感をなくすことができる。

【 0 0 3 0 】

請求項 4 に記載した発明によれば、上記効果に加え衝撃荷重が作用した場合にプリテンショナーによりヒップベルトが巻き取り方向に引張られるため、乗員の腰部はラップベルト部とヒップベルトとで挟み込むように保持されるため、衝撃

荷重が印加された場合においてのみラップベルト部とヒップベルトにより乗員の腹部にかかる負荷を最小限に抑えて乗員の腰部を確実に拘束できる効果がある。したがって、通常使用時においてヒップベルトによる拘束感をなくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 この発明の第 1 実施形態の正面図である。

【図 2】 この発明の第 1 実施形態の斜視図である。

【図 3】 この発明の第 1 実施形態の簡略図である。

【図 4】 この発明の第 2 実施形態の斜視図である。

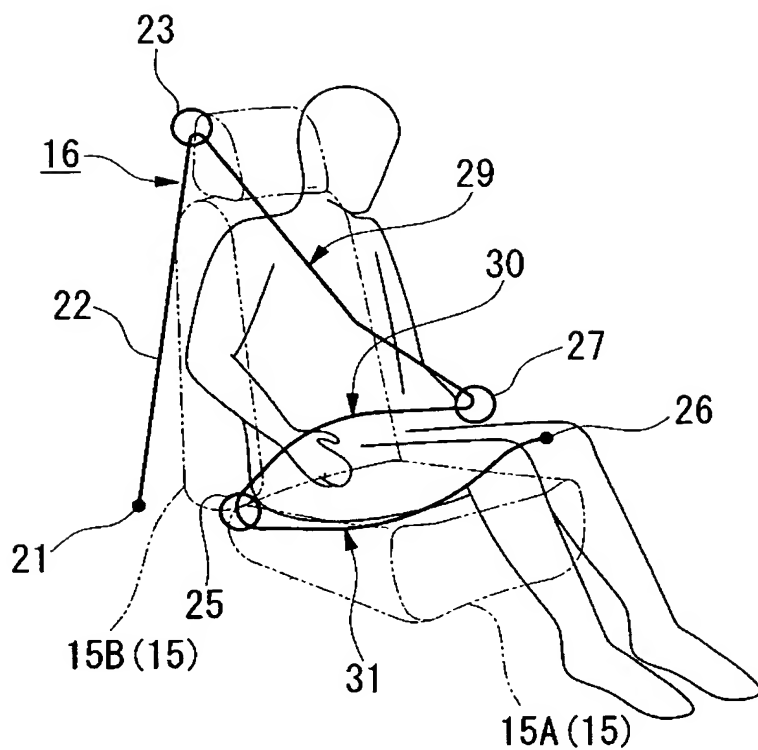
【図 5】 この発明の第 3 実施形態の斜視図である。

【図 6】 従来技術の正面図である。

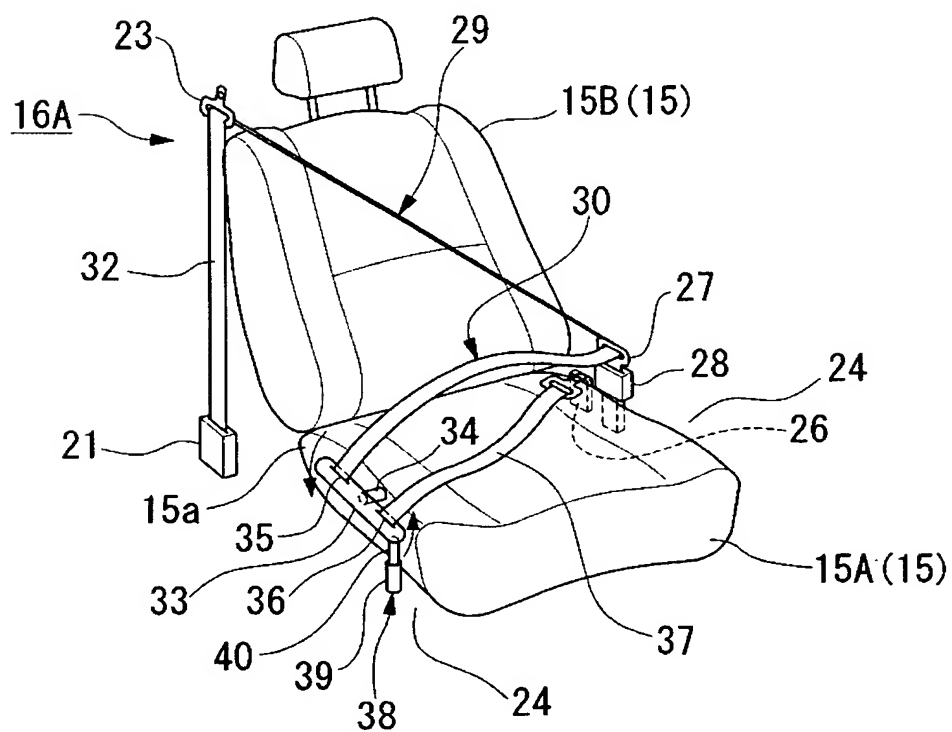
【符号の説明】

- 15A シートクッション
- 25 アウタースルーアンカー
- 26 インナーアンカー
- 29 ショルダーベルト部
- 30 ラップベルト部
- 31 ヒップベルト部（ヒップベルト）
- 33 アウターアンカー
- 37, 45 ヒップベルト
- 38 パワーソース
- 44 プリテンショナー

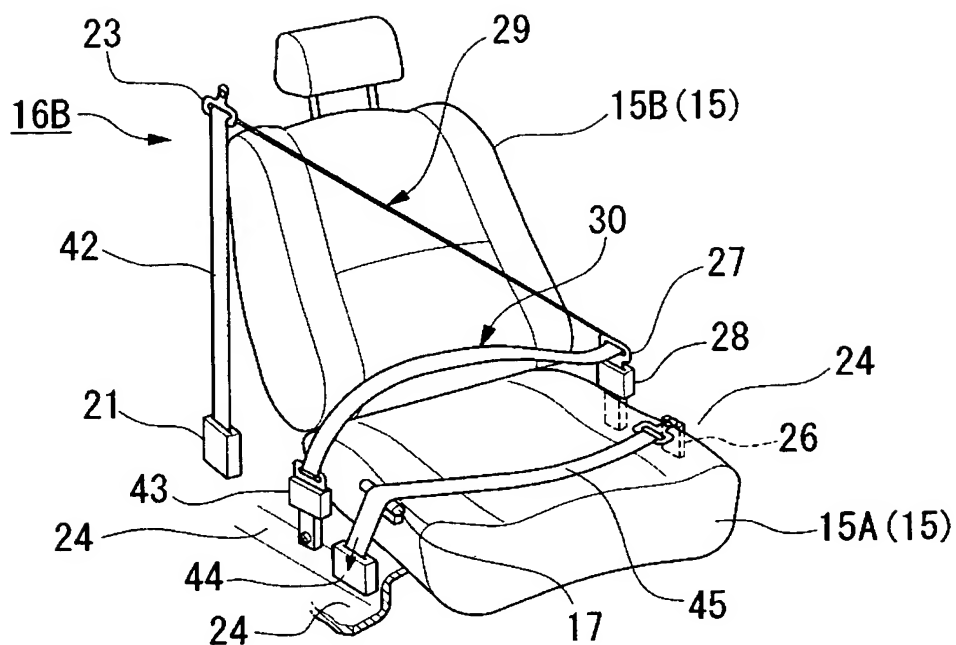
【図 3】



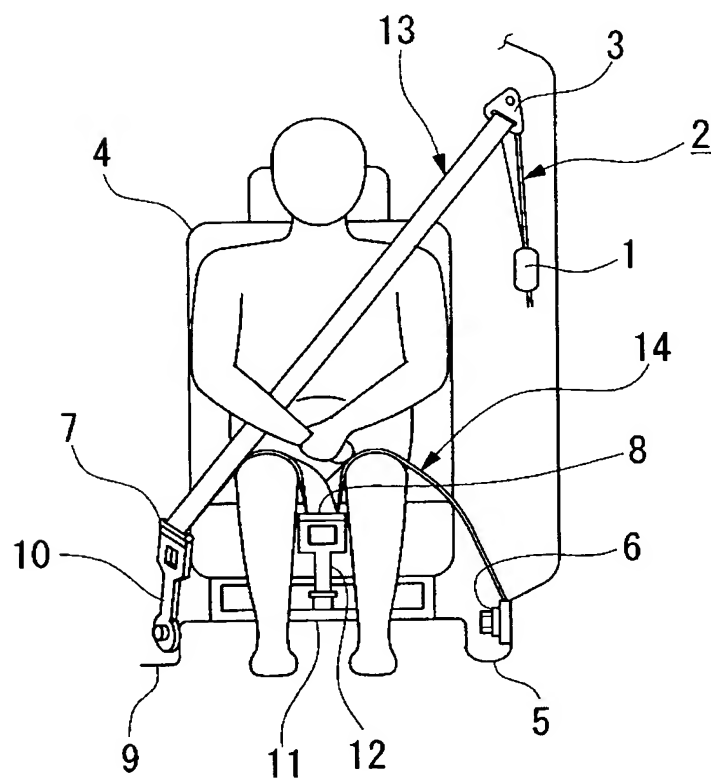
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 乗員にかかる負荷を十分に軽減し、抵抗感なく装着することができる自動車用シートベルト装置を提供する。

【解決手段】 乗員の上半身前側を拘束するショルダーベルト部 2 9 と乗員の腰前側を拘束するラップベルト部 3 0 とを備え、乗員の腰部下側にラップベルト部 3 0 との間で乗員の腰部を拘束するヒップベルト部 3 1 を設けたことを特徴とする。

【選択図】 図 2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 2 - 2 9 7 2 2 1
受付番号	5 0 2 0 1 5 2 7 8 3 5
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0 0 9 2
作成日	平成 1 4 年 1 0 月 1 1 日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000005326
【住所又は居所】	東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号
【氏名又は名称】	本田技研工業株式会社

【代理人】

申請人	
【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】	100094400
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】	100107836
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 2 3 番 3 号 O R ビ ル 志賀国際特許事務所

次頁有

認定・付加情報（続き）

【氏名又は名称】	西 和哉
【選任した代理人】	
【識別番号】	100108453
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	村山 靖彦

次頁無

特願 2 0 0 2 - 2 9 7 2 2 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 3 2 6]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 9 月 6 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号

氏 名

本田技研工業株式会社